

---

# 俺の先輩

柚子リョウコ

---

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

俺の先輩

### 【Nコード】

N5266BA

### 【作者名】

柚子リヨウコ

### 【あらすじ】

藤野涼介は、学校一見た目が可愛い男の子。

しかし、中身は超絶鬼畜！！

そんな涼介の趣味は大好きな学校一美少年な西脇先輩を辱めることなんだか、不思議な立場逆転？ラブコメデ---

こんにちは？

こんにちは、と言っておこうかな

俺は、ふじのりようすけ藤野涼介て言います

これからお話しするのは俺と先輩のぐだぐだ恋愛話です

まあ、俺的には先輩が赤面したりすねたりする光景が可愛すぎて・  
・っとはこのお話の中で？

「おい、ふーじーの」

藤野涼介は後ろ呼び止められる

誰だよ、今から帰ろうとしてんのに

めんどくさいが振り返る

「あん？中沢か」

涼介を呼び止めたのはクラスメートの中沢慧なかざわけいだった

「おつまえなあ、あからさまに嫌そうな顔すんなよ。地味に傷つく

わ

いや、お前が傷つこうが傷つかまいがどーでもいいんだよ

「で、何？なんか用？」

涼介は冷たく突き放すように言う

「お前、あきらかに早く終わらせようとしてるだろ。まあ、いい。それより今日みんなでナンパしに行こっかなって、お前顔いいじゃんだから可愛い子たちわんさかつれそうだしってわけでお前もどう？」

「いけない」

わずか1秒で即答

「おまつ・・・男だるもうちよつと考えるよ」

慧が両手をあわせ頼みこむ

「何度も言うけど、行かない。ってか、お前ニナちゃん好きじゃなかったのか？」

一応言つとくけど、ニナちゃんとは学年1のかわいい子ちゃんだ

「それと、これとは別だろうが。わからなかね俺は今餓えてんだよ」

慧は両手をわきわきさせながら目をぎらつかせる

こいつ・・・本気だな

我ながら、この友達を恥ずかしく思う

「ったく、そんなにやりてえならお前んちの裏庭のポチとでもヤツてろ。」

「つか俺これから先輩とデートだから。」

最後にコイツのソレが不能にならない程度にけりを入れた

「うお、あゝうー！！！」

ゴスつと音がして慧がその場につづくまる

おお、ジャスミート？！

「ンじゃ、お・さ・き・に」

そういうと涼介はつづくまる慧を置き去りにして歩きだした

早く先輩に会いたい。涼介の中にはその思いで一杯だった

涼介の少し後から慧の叫び声が聞こえたような気がした

気のせいかな？ま、アイツにはあれが丁度いいだろ



先輩でしょ？

あれから、先輩を待つこと30分以上

遅い……。元々我慢ずよいほうじゃないし

にしても遅い。

校門に寄りかかりでポケットに手を入れ眉間にしわを寄せる

はたから見るともの凄い怒ってるみたいに見えるかも……。

でも、もうキレる寸前か？

一人でかなりイラついていると、いきなり自分の視界が真っ暗になった

誰かに後ろから自分の目を手で覆われたのだ

「なにするんですか、玲人先輩」

涼介は自分の目を覆っていた手を引き離し、後ろのその人を見上げる

「なんで、わかつちやうかなー？つまんなーい」

玲人は腕を広げはあつと首を振る

にしわきれいと  
西脇玲人、学校一の美少年先輩。

見た目はかなりエロく、そこらへんのホストのような感じだが、  
りなりにも俺の恋人なわけ

「そんなことより、先輩30分以上も遅刻なんですケド。俺待つの  
嫌いつて言いましたよね？」

有無を言わさない口調で先輩を見上げる

「そーだっただけ？ごめん、ごめん。もう、リョウくんはせっかちなあゝ」

玲人は涼介の額をちゃんと小突く

この、行動で後ほど玲人は散々な目にあわせられることになる

そんなことも知らず玲人はさらに涼介の髪の毛をワシャワシャとな  
でまわしたりしている

その陰で涼介は拳を震わせる

玲人先輩め、後で絶対泣かせやる・・・っと、そうだ！アレ《・・  
》しよっかな

ふふ、アレ《・・》なら玲人先輩も泣くだろうなあ。たのしみい

「レート先輩俺の家行きましたっか」

ニツコリと満面の笑みで玲人の手を引っ張る

「えっ？今日はマック寄るんじゃないの？」



玲人は涼介の後ろ姿に声をかける

「ええ、そうしようと思ったんですけどね……」

そのあとはあえて言わないことにした

言ったら絶対嫌がると思うし

何を考えているのか分ないといったように、涼介に手を引っ張られたまま玲人は首をかしげそれ以上はあまり聞かなかった

先輩が馬鹿でよかった。涼介は一人足取り軽く玲人の手を引っ張り自分の家にむかった

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5266ba/>

---

俺の先輩

2012年1月14日17時45分発行